

男女共同参画シンポジウム & ネットワーク会議

9 / 20
開催

9月20日（日）にシンポジウム&ネットワーク会議を開催しました。コロナ禍の開催となりましたが、多くの方にご参加いただきました。

講演会

午後1時30分～午後3時

ドイツの働き方改革を参考に、日本でもどういうことができるのかについて、分かりやすくご説明していただきました。

田中先生がおっしゃるには、日本の働き方はストレスが多くて生産性が低いのに、ドイツの働き方はストレスが少なくて生産性が高いのだそうです。それには以下のドイツによる3つの働き方改革が大きく影響しています。



講師 ^{たなか}田中 ^{ようこ}洋子さん
(筑波大学人文社会系教授・経済学博士)

1 労働時間の柔軟化

主たるものは、「労働時間口座制度」といった、残業時間分をポイントとして貯めたり使ったりできる制度や、自分の都合により働き方を決められる「個人別労働時間モデルの導入」です。これらの政策により、柔軟な働き方が広まりました。



2 正社員としてのパートタイム拡大

ドイツでは、パートタイム労働者を非正社員ではなく、短時間で働く“正社員”として扱っています。処遇はもちろん正社員と同じで、給与等は週40時間のうち働いた時間だけもらえます。例として挙げるならば、週40時間勤務のところ、週20時間働けば「正社員の給与×50%」がもらえるということになります。また、どんな仕事、立場の人でもパートとして働くことが出来、外交官や官僚、裁判官、頭取、取締役までパート勤務が広がり、柔軟な働き方として、誰でも積極的に選択できる働き方となりました。

3 パート勤務によるキャリア形成

ドイツでは、パートからの管理職への登用も進んでいます。ボッシュ社による事例等を挙げ、お話しいただきました。パートは働き方の選択肢の1つとして広まっているようです。

最後に、日本ではコロナを契機に働き方の変化が生まれており、在宅勤務の活用など、少しずつ社会の仕組みを変えていくことが大事だと田中先生はお話しされました。何かとマイナスな面が多いコロナ問題ですが、よりよい働き方を生み出すきっかけにつながると思います。

ネットワーク会議

午後3時10分～午後4時20分

ファシリテーター

^{ほり}堀 ^{まさひと}正仁さん (中小企業診断士、ビジネスコーチ)

^{たかく}高久 ^{まさき}雅樹さん (中小企業診断士)

ネットワーク会議では2つのグループに分かれ、ファシリテーターの進行のもと、自己紹介や働き方等について意見交換を行いました。講座を聞いて勉強になったこと、新しい発見があったことなど、多くの意見が飛び交いました。

